

フィンランド道路交通研究所副所長ら来所す

去る4月23日、フィンランド国立技術研究センター(VTT)道路交通研究所のマルック・サルスマルヴィ副所長とマッティ・シストネン瀝青材料品質管理部長が、当開発土木研究所との共同研究の促進の可能性につき話し合うため来所した。

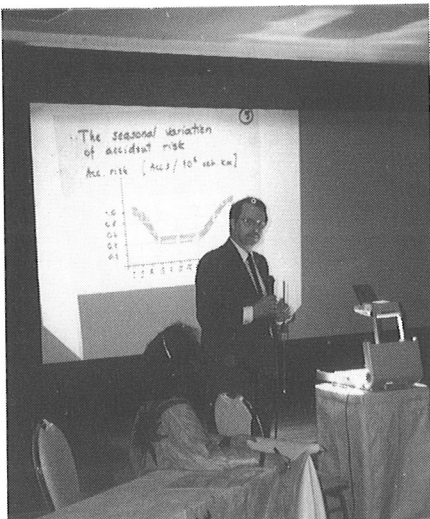
サルスマルヴィ副所長はフィンランドにおける交通安全、交通工学に関する第一人者であり、またシストネン部長は路面のすべり抵抗、スパイクタイヤおよび道路舗装の試験方法に関するフィンランドの総括担当者である。

VTTと当研究所の間には昭和61年の日・フィンランド科学技術協議以来、冬期道路交通と舗装材料の分野で協力関係が続いており、昭和62年3月のシストネン部長の来所、平成元年3月の久保研究調整官(現所長)のVTT訪問など、研究成果の交換などが行われている。

今回の訪問中、人的な交流も含めた共同研究の一層の促進について協議を行ったが、双方から中期ないしは長期間の滞在が可能な時期およびそれを可能とする双方の制度につき説明がなされ、それをそれぞれが持ち帰り検討することとなったほか、今後もできる限り幅広い情報の交換を続けることで意見の一致をみた。

また、当日の午後には、札幌市内にて当研究所等が主催する道路技術国際講演会が開催され、両氏は「フィンランドにおける交通事故対策について」、「フィンランドにおける舗装摩耗対策とスパイクタイヤの使用規制について」と題して3時間にわたり講演を行った。本講演会に対する関心はきわめて高く、会場には道内各地から200名近くが集まり熱心に聴講した。

サルスマルヴィ氏の講演のひとこま



久保所長の開会挨拶